

令和4年度 佃中学校外部評価報告書

評価委員：小川 建司、岡渕 貴幸、三森 寧子、木切倉 朗、片山 英治、
高山 葉子、青柳 聖真、熊谷 芳紀、永木 一郎

評価時期 令和5年2月

1 重点目標の評価

<重点目標1について>

確かな学力の定着

「自ら学習の課題を見付け、見通しをもって粘り強く学習に取り組む態度の育成」

- ・概ね目標は達成できていると思われるが、苦手な教科の克服に対する努力の割合は気になるところである。
- ・保護者による基礎学力が身につくように教えているかという点で、「教えられている」割合がやや下がっていることも踏まえると、生徒一人一人の学力に合った指導という点で課題があるのかもしれない。
- ・今の子どもたちは、情報化の中でインプットは十分あるが、それを整理して上手にアウトプットできていないように感じている。ぜひ、生徒の考えや思いを言語化できるように指導してほしい。

<重点目標2について>

豊かな心を育む教育の推進

「命を大切にし、広く社会に貢献できる生徒の育成」

- ・教員アンケートで「命を大切にし、広く社会に貢献できる生徒」の育成を図ることができているかについて、94%が肯定的回答をしている。道徳授業や日々の体験活動等を通して、生徒が豊かな心を育むよう様々な取組をされているのだと思う。
- ・概ね目標は達成しているようだが、自分のよいところがあるかどうか、自分のよさを生かしているかという点では、明確な自己理解はまだ難しいであろうと推察した。
- ・保護者からもボランティア活動の参加に実際はそれほど進んで参加していないことが読み取れ、社会貢献といったことに生徒がどのように考えているのか把握したい。
- ・地域の行事やボランティア活動を行える場所をつくり、それを保護者にも伝えていきたい。

<重点目標3について>

良好な教育環境の推進

「生徒が安心して登校し、満足して下校する学校」

- ・概ね、達成していると考えられる。思春期という自己に葛藤や迷いを生じる生徒たちだからこそ、その葛藤に寄り添い、信頼される教師として先生方には頑張っていただきたいと願う。

- ・生徒アンケートで「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生は悩みなどについて相談にのってくれますか」の肯定的回答がそれぞれ96%、93%と非常に高い。日頃から先生が生徒一人一人に丁寧なサポートをしているからこそで素晴らしい結果であり、今後も引き続き細やかなサポートを期待したい。
- ・教室に行けない生徒にとって、サポートルームを普通的手段として使い、登校の仕方も多様性があるとよい。
- ・あいさつをもっとできるように力を入れてほしい。
- ・生徒たちの成功体験が大切だと思う。授業が難しくても、地域の方が話し相手になるような関わり方ができるとよいと思う。

2 今後の改善に向けた意見

- ・保護者アンケートで「わからない」の回答が20%前後の項目が7つもあり、改善策が必要に思う。
- ・十分に学校として生徒のため、保護者のため、地域のために尽力されていると思います。不登校生徒支援も含めて、人生の基盤づくりとなる中学生の時期に、学校として一人一人の生徒に向き合い、健全な成長発達を願って教育活動や支援していただきたいと思います。そのためにも佃中学校という組織がより充実するように教職員の研修等も重要だと考えます。
- ・保護者により一層学校の教育活動に興味を持ってもらうよう、ホームページを活性化させる等、「わからない学校」から「よく見える学校」になることを期待したい。

3 その他の意見

- ・小中の連携について、目的をきちんと考えてやっていく必要がある。今年度は生徒と児童の交流がなかなかできなかったが、来年度からは是非コロナ前のように戻ってほしい。
- ・生徒を守るためにも教員を守ることも念頭にいただき、改善を要することは早急に改善し、働きやすい職場であるべきと思います。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者が学校行事等に積極的に関われなかったことは致し方ないことであり、今後の情勢により変化すると考える。全体的に昨年度と大きく違いはみられず、家庭と地域の連携はとれていると感じている保護者が多いと推察する。